

様式 1

研究報告書（平成 27 年度）

提出者 牧野 雅子

提出年月日 2016/04/27

**【本ユニットにおける研究テーマ】**

和文 公権力の性暴力認識、及び、加害・二次加害に関する歴史社会学的研究

英文 A historical study of sexual violence and criminal justice system in Japan.

**【研究のねらいと目的】**（600 字程度）

本研究は、性暴力に関する公的言説の分析によって、公権力の性暴力認識を明らかにしようとするものである。

世界的な被害者保護の気運やフェミニズムを背景に、日本でも、性暴力被害当事者が声を上げ、公権力による性暴力加害事実の存在が明らかになった。これまでは性暴力と見なされてこなかった、性の管理や被害者に対する二次加害を、性暴力としてとらえ直す動きもある。その一方で、加害行為を正当化し、被害者を貶める言説も生産され続けている。加害の記憶は、放置していれば矮小化され、隠蔽され、書き換えられ、なかったことにされていく。このような昨今において、公権力が行った性暴力事実を記録することは、これまでにないほど重要さをましている。

本研究では、公権力、とりわけ、警察活動において行われた、性の管理という暴力や捜査における二次加害を扱う。公娼制度の時代から、性の管理は警察の重要な業務の一つであった。太平洋戦争期は、銃後対策として国内の性の取締りが警察によって行われ、占領期においても、慰安所の設営や女性の管理を自組織の維持のために行った。性犯罪捜査によって被害女性が重大な二次被害にさらされていることは、現在でも問題となっている。これらは、日本という限られた領域の問題にとどまらない。「従軍慰安婦問題」は、女性の「強制」連行事実の有無が焦点になるなど、刑事司法「性犯罪」概念の問題と重なるものである。

**【研究業績】** 学会報告・論文など

『性暴力加害者の語り』と安倍談話』『世界』2015（岩波書店）10 月号

**【成果の概要】**（800字程度）

27年度の研究及び関連活動は、①性暴力の歴史社会学的研究 ②性暴力加害／被害当事者に対する聞き取り ③「性犯罪」抑止対策の分析・検討 ④これらの情報・知見の提供である。具体的には、以下の通り。

①性暴力に関する歴史社会学的研究として、資料調査を、国会図書館や各地の公立図書館で行った。この研究は次年度以降も引き続き行う予定である（2016年度－2020年度 科研費 基盤研究（C）課題番号：16K02033「近代日本における「性犯罪」抑止政策と法の批判的検討」）。

②性暴力加害者や被害者、その家族等に対する聞き取りを行い、性暴力加害の社会的背景や、被害者支援の問題点について、分析・考察を進めている。今後も、聞き取りは継続する予定である。

③研究者や実務家たちと、電車内痴漢抑止キャンペーンを対象とした、防止効果の検討と、ポスター等の表象をジェンダーの視点から分析する調査プロジェクトを立ち上げた。現在、資料を調査・収集するとともに、メンバー内での議論を行い、情報をサイトで提供している。次年度以降も、調査プロジェクトは継続する。

④①～③によって得た知見から、時節に応じた性暴力についての論考を発表した。作家・百田尚樹氏の自民党若手議員勉強会での性暴力発言については『琉球新報』に、従軍慰安婦問題に言及した「安倍談話」の問題については『世界』（岩波）に寄稿した。性暴力加害者に対する聞き取り調査を始めたきっかけや、加害者の語りの特徴について、『早稲田文学』に論考を寄せた。また、性暴力やジェンダー研究に関心を持ってもらうために、一般の読者向けに、身近な題材を扱った連載記事も執筆している。

「百田氏性暴力発言」『琉球新報』7月3日20面

「妄想世界の語り部たち——性暴力加害者インタビュー序章」『早稲田文学 2015年夏号』

LOVE PIECE CLUB 「今月のマモルくん」

<http://www.lovepiececlub.com/sexandlove/mamoru/>

「痴漢撲滅系ポスター」調査プロジェクト

<http://posterproject.jimdo.com/>

**【通信欄】**